

堀田宣之旧蔵資料公開に関するプレス発表

日時	2018年9月5日(水) 開始 17:00 (30分程度を予定)
会場	熊本学園大学 学長室 (本館3階)
参加	学長 幸田 亮一(コウダ リョウイチ) 水俣学研究センター長 花田 昌宣(ハナダ マサノリ) 特定医療法人富尾会桜が丘病院理事長 堀田 宣之(ホッタ ノブユキ) 来民文庫 吉岡 威夫(ヨシオカ タケオ)
内容	資料目録の説明、および寄贈者の堀田宣之氏、吉岡威夫氏へ資料目録の贈呈式 ※プレス発表に先立ち、16時50分より同会場において資料目録および一部貴重資料を公開いたします。

公開の目的

堀田宣之旧蔵資料は、熊本地震後の2016年5月、来民文庫(熊本県山鹿市鹿本町)の吉岡威夫氏を介して本学に寄贈を受けました。堀田氏は、本学水俣学研究センター長であった故原田正純とともにヒ素中毒やカナダ水俣病などの調査を行っており、学長の指示のもと同センターで資料を受け入れました。2年にわたる整理作業を終え、2018年9月5日に公開する運びとなりました。ヒ素中毒の調査研究をまとめた日本で唯一の資料目録は、世界的にも貴重な価値を有します。今後、書籍や写真を公開する予定です。

公開するにあたり、世界的にもヒ素中毒研究者として著名な堀田氏の資料がなぜ地方の私立大学に寄贈されたのか、その意味と水俣学との関連を説明する機会として、プレス発表の場を設けさせていただきます。

公開資料の概要

資料は、紙資料、書籍資料(168点)、写真資料(3775点)で構成されています。このうち公開するのは紙資料468点で、堀田氏が1975年以降から国内外のヒ素中毒汚染地域で検診を行ったカルテや訴訟での問題整理メモ、ヒ素中毒が全身病であることを立証するための多数の論文などで構成されています。今後、書籍や写真(ヒ素中毒患者の患部を撮影したものなど)も公開する予定です。

堀田宣之(ほった・のぶゆき)氏について

同氏は、1965年に熊本大学医学部卒業、熊本大学医学部神経精神医学教室等を経て、73年に熊本大学体質医学研究所気質学部門の助手として着任。同部門の助教授は、故原田であり共に公害問題に取り組みました。

在職中、宮崎県高千穂町土呂久のヒ素中毒患者に水俣病類似の神経症状があることに関心を抱き、75年から土呂久や松尾の鉱山跡に通い、90年の土呂久公害訴訟和解まで被害住民の医学的調査を行いました。87年8月には医師団を編成しヒ素汚染による中毒が発生していた新潟県中条町の住民検診を行いました。

その後、海外二十数カ所の地域でヒ素汚染地の訪問調査を開始、症候学的調査を行い、この功績が認められ2010年には第22回久保医療文化賞を受賞。現在、特定医療法人富尾会桜が丘病院理事長を務めています。

2010年、カナダ先住民民族居留地であるグラッシーナロウズ、ホワイトドッグで水俣病の調査を行った際、原田の呼びかけに無給で集まった医師団に堀田氏も参加しました。

堀田氏と水俣学研究センターとの関連

本学では、「負の遺産」としての水俣病事件の全体像解明を基礎に、新たな学術分野と方法論を開拓すべく2005年に水俣学研究センターを設置し、体系的な資料を収集し公開しています。その一環として水俣学研究文献データベース作成事業が位置づいています。水俣病事件にかかる資料の公開データベースは、本研究以外にみられません。2009年以降、水俣病事件に関連する十数万点の資料を整理し、順次ホームページ上で公開してきました。

公害史・水俣病事件史の資料のみならず、堀田氏旧蔵のヒ素中毒調査資料を単一の研究機関として公開することは、国内外の研究に大きく寄与できるものです。

本リリースについてのお問合せ

熊本学園大学 広報室

Tel 096-364-8722

Fax 096-364-6526

